

## IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of

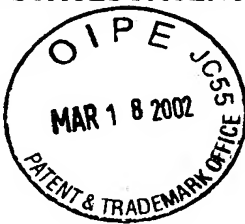
Toshiro HAZE et al.

Application No.: 10/080,685

Filed: February 25, 2002

Docket No.: 111924

For: COMMUNICATION APPARATUS

**RECEIVED****MAR 2 2 2002****Technology Center 2100****CLAIM FOR PRIORITY**Director of the U.S. Patent and Trademark Office  
Washington, D.C. 20231

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested for the above-identified patent application and the priority provided in 35 U.S.C. §119 is hereby claimed:

**Japanese Patent Application No. 2001-055257**

In support of this claim, a certified copy of said original foreign application:

  x   is filed herewith.           was filed on            in Parent Application No.            filed           .           will be filed at a later date.

It is requested that the file of this application be marked to indicate that the requirements of 35 U.S.C. §119 have been fulfilled and that the Patent and Trademark Office kindly acknowledge receipt of this document.

Respectfully submitted,

James A. Oliff  
Registration No. 27,075Holly N. Sy  
Registration No. P-50,212

JAO:HNS/cfr

Date: March 18, 2002

**OLIFF & BERRIDGE, PLC**  
**P.O. Box 19928**  
**Alexandria, Virginia 22320**  
**Telephone: (703) 836-6400**

DEPOSIT ACCOUNT USE  
AUTHORIZATION  
Please grant any extension  
necessary for entry;  
Charge any fee due to our  
Deposit Account No. 15-0461

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2001年 2月28日

RECEIVED

出願番号  
Application Number:

特願2001-055257

MAR 22 2002

Technology Center 2100

[ST.10/C]:

[JP2001-055257]

願 人  
Applicant(s):

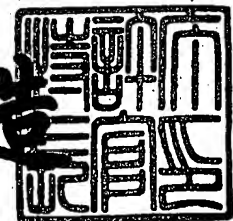
ブラザー工業株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2002年 2月26日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2002-3010931

57R511

【書類名】 特許願

【整理番号】 00062600BR

【提出日】 平成13年 2月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 11/00  
G06F 13/00

【発明の名称】 通信装置

【請求項の数】 19

【発明者】

    【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町 1 5 番 1 号 ブラザー工業株式会  
社内

    【氏名】 ▲はぜ▼ 敏朗

【発明者】

    【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町 1 5 番 1 号 ブラザー工業株式会  
社内

    【氏名】 加藤 篤典

【発明者】

    【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町 1 5 番 1 号 ブラザー工業株式会  
社内

    【氏名】 宇佐見 有里

【特許出願人】

    【識別番号】 000005267

    【氏名又は名称】 ブラザー工業株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100086380

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 吉田 稔

【選任した代理人】

    【識別番号】 100103078

【弁理士】

【氏名又は名称】 田中 達也

【選任した代理人】

【識別番号】 100105832

【弁理士】

【氏名又は名称】 福元 義和

【連絡先】 0 6 - 6 7 6 4 - 6 6 6 4

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 024198

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9501083

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機と、その親機を通じて前記送信データを受信して表示できる子機とを備えた通信装置であって、

前記センタに対して前記親機または子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行ったもののみに対して前記送信データに関する情報を取得させる制御手段を有することを特徴とする通信装置。

【請求項 2】 相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機と、その親機を通じて前記送信データを受信して表示できる子機とを備えた通信装置であって、

前記センタに対して前記親機または子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得することを禁止する制御手段を有することを特徴とする通信装置。

【請求項 3】 前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて前記親機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記親機から前記子機へと配信する、請求項 1 または 2 に記載の通信装置。

【請求項 4】 前記親機または子機は、前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、

前記制御手段は、前記親機または子機のうち前記送信データの取得を禁止されなかったものについて前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる、請求項 2 または 3 に記載の通信装置。

【請求項 5】 前記制御手段は、前記親機または子機が前記送信データを受信して取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する、請求項 4 に記載の通信装置。

【請求項 6】 前記制御手段は、前記親機および子機の各機が取得した前記

送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて各機にて一覧表示させる、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の通信装置。

【請求項 7】 前記制御手段は、外部からの要求に応じて前記親機および子機の各機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する、請求項 6 に記載の通信装置。

【請求項 8】 相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる一方、その送信データを子機に転送できる親機としての通信装置であって、  
前記センタに対して本機または前記子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行ったもののみに対して前記送信データに関する情報を取得させるように制御する、または、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得することを禁止するように制御する制御手段を有することを特徴とする通信装置。

【請求項 9】 前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて本機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を本機から前記子機へと配信する、請求項 8 に記載の通信装置。

【請求項 10】 前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、  
前記制御手段は、本機が前記送信データの取得を禁止されなかった場合に前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる、請求項 8 または 9 に記載の通信装置。

【請求項 11】 前記制御手段は、前記送信データを受信して取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する、請求項 10 に記載の通信装置。

【請求項 12】 前記制御手段は、本機が取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる、請求項 8 ないし 11 のいずれかに記載の通信装置。

【請求項 13】 前記制御手段は、外部からの要求に応じて本機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する、請求項 12 に記載の通信装置。

【請求項 1 4】 相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機とともに用いられ、その親機から前記送信データを受信して表示できる子機としての通信装置であって、

前記センタに対して本機または前記親機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得できないよう制御する制御手段を有することを特徴とする通信装置。

【請求項 1 5】 前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて前記親機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記親機から本機へと配信させる、請求項 1 4 に記載の通信装置。

【請求項 1 6】 前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、

前記制御手段は、本機が前記送信データの取得を禁止されなかった場合に前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる、請求項 1 4 または 1 5 に記載の通信装置。

【請求項 1 7】 前記制御手段は、本機が前記送信データを取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する、請求項 1 6 に記載の通信装置。

【請求項 1 8】 前記制御手段は、本機が取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる、請求項 1 4 ないし 1 7 のいずれかに記載の通信装置。

【請求項 1 9】 前記制御手段は、外部からの要求に応じて本機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する、請求項 1 8 に記載の通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、たとえば電子メールデータを受信して表示できる親機と子機とを備えたファクシミリ装置などの通信装置に関する。

【0002】

## 【従来の技術】

最近のファクシミリ装置には、電子メールデータを受信して表示や印刷できる親機と、その親機を通じて電子メールデータを受信して表示できる子機とを備えたものがある。電子メールデータは、一般に相手先からセンタに到着した後、受信側からセンタに対して送信要求を行わなければ受信することができないが、センタが提供するメールサービスによっては、新着の電子メールデータを自動的に送信する機能もある。このような送信要求あるいは自動送信のいずれにしても、親機と子機とを備えたファクシミリ装置では、通常、電子メールデータが親機を受け口として受信されるとともに、その親機のメモリに保存されるものとされている。子機を用いて電子メールデータを確認する場合には、一旦親機を介して受信した電子メールデータをその親機から取り込み、子機の画面上に表示させるものとしている。

【0003】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記したように電子メールデータが一律に親機のメモリに保存される場合、たとえば子機の画面上だけで確認したい私信としての電子メールデータがあっても、親機を操作すれば親機の画面上でその電子メールデータを確認できるので、電子メールデータを内密に取り扱うことができなかった。

【0004】

本発明は、上記の点に鑑みて提案されたものであって、相手先から送られた送信データを受信する方法に応じて内密に取り扱うことができる通信装置、およびそのような通信装置の動作を実現するためのコンピュータプログラムを提供することを目的とする。

【0005】

## 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項1に記載した発明の通信装置は、相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機と、その親機を通じて前記送信データを受信して表示できる子機とを備えた通信装置であって、前記



センタに対して前記親機または子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行ったもののみに対して前記送信データに関する情報を取得させる制御手段を有することを特徴とする。

## 【 0 0 0 6 】

このような通信装置によれば、たとえば子機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、その子機が親機を通じて送信データを受信しつつも、送信要求を発した子機以外の親機などには送信データが取得されないで、私信としての送信データが送信要求を行った子機のみを取得され、その子機上で送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。もちろん、親機から送信要求を行った場合や、複数の子機のいずれか1つから送信要求を行った場合についても同様である。なお、この場合、親機において送信データが取得されないということと、一旦親機において送信データを回線網から受けてメモリに保持した後、発呼子機に当該データを送信することとは矛盾しない。要するに、親機や他の子機における表示や印刷用のメモリに取得されなければ良い。

## 【 0 0 0 7 】

また、請求項2に記載した発明の通信装置は、相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機と、その親機を通じて前記送信データを受信して表示できる子機とを備えた通信装置であって、前記センタに対して前記親機または子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得することを禁止する制御手段を有することを特徴とする。

## 【 0 0 0 8 】

このような通信装置によれば、請求項1に記載の通信装置による効果と同様の効果を得ることができる。

## 【 0 0 0 9 】

さらに、請求項3に記載した発明の通信装置は、請求項1または2に記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて前記親機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記親機から前記子機へと配信する。

## 【 0 0 1 0 】

このような通信装置によれば、請求項 1 または 2 に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて親機が送信データを受信した場合には、その送信データが親機および子機の全てに取得され、各機上で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

## 【 0 0 1 1 】

また、請求項 4 に記載した発明の通信装置は、請求項 2 または 3 に記載の通信装置であって、前記親機または子機は、前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、前記制御手段は、前記親機または子機のうち前記送信データの取得を禁止されなかったものについて前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる。

## 【 0 0 1 2 】

このような通信装置によれば、請求項 2 または 3 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば親機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて親機にて送信データを受信した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、子機から送信要求を行った場合には、親機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、その子機上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うことができる。要するに、制御手段は、親機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その親機が送信データを受信して取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させるものとすることができる。

## 【 0 0 1 3 】

さらに、請求項 5 に記載した発明の通信装置は、請求項 4 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記親機または子機が前記送信データを受信して取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する。

## 【 0 0 1 4 】

このような通信装置によれば、請求項 4 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば親機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場

合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、その親機にて受信した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

## 【 0 0 1 5 】

また、請求項 6 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記親機および子機の各機が取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて各機にて一覧表示させる。

## 【 0 0 1 6 】

このような通信装置によれば、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、親機および子機の各機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

## 【 0 0 1 7 】

さらに、請求項 7 に記載した発明の通信装置は、請求項 6 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、外部からの要求に応じて前記親機および子機の各機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する。

## 【 0 0 1 8 】

このような通信装置によれば、請求項 6 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

## 【 0 0 1 9 】

また、請求項 8 に記載した発明の通信装置は、相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる一方、その送信データを子機に転送できる親機としての通信装置であって、前記センタに対して本機または前記子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行ったもののみに対して前記送信データに関する情報を取得させるように制御する、または、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得することを禁止するように制御する制御手段を有することを特徴とする。

## 【 0 0 2 0 】

このような通信装置によれば、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、本機が送信データを受信しつつも、送信要求を発した本機以外の子機などには送信データが取得されないで、私信としての送信データが送信要求を行った本機のみを取得され、本機の画面上で送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。

## 【 0 0 2 1 】

さらに、請求項 9 に記載した発明の通信装置は、請求項 8 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて本機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を本機から前記子機へと配信する。

## 【 0 0 2 2 】

このような通信装置によれば、請求項 8 に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて本機が送信データを受信した場合には、その送信データが本機および子機の全てに取り込まれ、各機上で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

## 【 0 0 2 3 】

また、請求項 1 0 に記載した発明の通信装置は、請求項 8 または 9 に記載の通信装置であって、前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、前記制御手段は、本機が前記送信データの取得を禁止されなかった場合に前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる。

## 【 0 0 2 4 】

このような通信装置によれば、請求項 8 または 9 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて本機にて送信データを受信した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、子機から送信要求を行った場合には、本機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、その子機上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うことができる。要するに、制御手段は、本機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その送信データを受信して取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させ

るものとすることができる。

【 0 0 2 5 】

さらに、請求項 1 1 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 0 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記送信データを受信して取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する。

【 0 0 2 6 】

このような通信装置によれば、請求項 1 0 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、本機にて受信した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

【 0 0 2 7 】

また、請求項 1 2 に記載した発明の通信装置は、請求項 8 ないし 1 1 のいずれかに記載の通信装置であって、前記制御手段は、本機が取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる。

【 0 0 2 8 】

このような通信装置によれば、請求項 8 ないし 1 1 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、本機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

【 0 0 2 9 】

さらに、請求項 1 3 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 2 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、外部からの要求に応じて本機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する。

【 0 0 3 0 】

このような通信装置によれば、請求項 1 2 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

【 0 0 3 1 】

また、請求項 1 4 に記載した発明の通信装置は、相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機とともに用いられ、その親機から前記送信データを受信して表示できる子機としての通信装置であって、前記センタに対して本機または前記親機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得できないよう制御する制御手段を有することを特徴とする。

## 【 0 0 3 2 】

このような通信装置によれば、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、本機が親機から送信データを取得しつつも、送信要求を発した本機以外の親機などには送信データが取り込まれないので、私信としての送信データが送信要求を行った本機のみを取得され、本機の画面上に送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。

## 【 0 0 3 3 】

さらに、請求項 1 5 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 4 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、前記センタからの自動送信に応じて前記親機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記親機から本機へと配信させる。

## 【 0 0 3 4 】

このような通信装置によれば、請求項 1 4 に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて親機が送信データを受信した場合には、その送信データが親機を通じて本機に取得され、本機の画面上で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

## 【 0 0 3 5 】

また、請求項 1 6 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 4 または 1 5 に記載の通信装置であって、前記送信データを印刷できる印刷手段を備え、前記制御手段は、本機が前記送信データの取得を禁止されなかった場合に前記印刷手段を介して前記送信データを印刷させる。

## 【 0 0 3 6 】

このような通信装置によれば、請求項 1 4 または 1 5 に記載の通信装置による

効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて本機が送信データを取得した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、本機から送信要求を行った場合には、親機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、本機の画面上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うことができる。要するに、制御手段は、本機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その送信データを取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させるものとすることができる。

## 【 0 0 3 7 】

さらに、請求項 1 7 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 6 に記載の通信装置であって、前記制御手段は、本機が前記送信データを取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送信データが前記印刷手段を介して印刷されることを禁止する。

## 【 0 0 3 8 】

このような通信装置によれば、請求項 1 6 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、本機にて取得した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

## 【 0 0 3 9 】

また、請求項 1 8 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 4 ないし 1 7 のいずれかに記載の通信装置であって、前記制御手段は、本機が取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる。

## 【 0 0 4 0 】

このような通信装置によれば、請求項 1 4 ないし 1 7 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、本機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

## 【 0 0 4 1 】

さらに、請求項 1 9 に記載した発明の通信装置は、請求項 1 8 に記載の通信装

置であって、前記制御手段は、外部からの要求に応じて本機が取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する。

【 0 0 4 2 】

このような通信装置によれば、請求項 1 8 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

【 0 0 4 3 】

なお、本発明は、以下に示す通りのコンピュータプログラムによっても実現可能である。

【 0 0 4 4 】

(1) 相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる一方、その送信データを子機に転送できる親機としての通信装置として機能させるためのコンピュータプログラムであって、前記センタに対して本機または前記子機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行ったもののみに対して前記送信データに関する情報を取得させるように制御する、または、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得することを禁止するように制御する制御プログラムを含むことを特徴とするコンピュータプログラム。

【 0 0 4 5 】

(2) 前記制御プログラムは、前記センタからの自動送信に応じて前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記子機へと配信する、前記 (1) に記載のコンピュータプログラム。

【 0 0 4 6 】

(3) 前記制御プログラムは、前記送信データの取得を禁止されなかった場合に、前記送信データを印刷できる印刷プログラムを介して前記送信データを印刷させる、前記 (1) または (2) に記載のコンピュータプログラム。

【 0 0 4 7 】

(4) 前記制御プログラムは、前記送信データを受信して取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて



前記送信データが印刷されることを禁止するように制御する、前記（３）に記載のコンピュータプログラム。

【0048】

（５）前記制御プログラムは、取得した前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる、前記（１）ないし（４）のいずれかに記載のコンピュータプログラム。

【0049】

（６）前記制御プログラムは、外部からの要求に応じて取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する、前記（５）に記載のコンピュータプログラム。

【0050】

（７）相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機とともに用いられ、その親機から前記送信データを受信して表示できる子機としての通信装置として機能させるためのコンピュータプログラムであって、前記センタに対して本機または前記親機のいずれかから前記送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が前記送信データに関する情報を取得できないよう制御する制御プログラムを含むことを特徴とするコンピュータプログラム。

【0051】

（８）前記制御プログラムは、前記センタからの自動送信に応じて前記親機が前記送信データを受信した場合、その送信データに関する情報を前記親機から本機へと配信させる、前記（７）に記載のコンピュータプログラム。

【0052】

（９）前記制御プログラムは、前記送信データの取得を禁止されなかった場合に印刷プログラムを介して前記送信データを印刷させる、前記（７）または（８）に記載のコンピュータプログラム。

【0053】

（１０）前記制御プログラムは、前記送信データを取得した場合であっても、その送信データに認証情報が設定されている場合、その認証結果に応じて前記送

信データが印刷されることを禁止する、前記（９）に記載のコンピュータプログラム。

【 0 0 5 4 】

（１１）前記制御プログラムは、前記送信データに関する情報を未読／既読ごとに分けて一覧表示させる、前記（７）ないし（１０）のいずれかに記載のコンピュータプログラム。

【 0 0 5 5 】

（１２）前記制御プログラムは、外部からの要求に応じて取得した前記送信データを未読／既読ごとに分けて一括処理する、前記（１１）に記載のコンピュータプログラム。

【 0 0 5 6 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態について図面を参照して説明する。

【 0 0 5 7 】

図１は、本発明に係る通信装置の一実施形態として、ファクシミリ装置を示すブロック図である。この図に示すように、本実施形態に係るファクシミリ装置は、親機としてのファクシミリ装置本体Ａと、子機としての複数のコードレス電話機Ｂ１～Ｂ５とを備えたものであって、親子間や子機間で音声信号や各種のデータをやり取り可能としたものである。なお、以下の説明においては、符号Ａで示すファクシミリ装置本体を親機と呼び、符号Ｂ１～Ｂ５で示すコードレス電話機を子機と呼ぶ。子機Ｂ２～Ｂ５については、子機Ｂ１と同様の構成であることから詳細な図示説明を省略し、図２に子機Ｂ１の外観を示す。また、図３には、親機Ａの外観を示す。

【 0 0 5 8 】

まず、図１を主に参照して親機Ａについて説明すると、親機Ａは、ＣＰＵ１０、ＮＣＵ１１、ＲＡＭ１２、モデム１３、ＲＯＭ１４、ＮＶＲＡＭ（不揮発性ＲＡＭ：Non-Volatile RAM）１５、ゲートアレイ１６、コーデック１７、ＤＭＡＣ１８、読取部２１、印刷部２２、操作部２３、表示部２４、および無線通信部２５などを具備して概略構成されている。ＣＰＵ１０、ＮＣＵ１１、ＲＡＭ１２、

モデム13、ROM14、NVRAM15、ゲートアレイ16、コーデック17、およびDMAC18は、バス線27により相互に接続されている。バス線27には、アドレスバス、データバス、および制御信号線が含まれる。ゲートアレイ16には、読取部21、印刷部22、操作部23、表示部24、および無線通信部25が接続されている。NCU11には、公衆電話回線28が接続されている。

## 【0059】

CPU10は、親機全体の動作を制御する。NCU11は、公衆電話回線28に接続されて網制御を行う。RAM12は、CPU10の作業領域や各種データのバッファ領域などを提供する。モデム13は、音声信号の変調や復調などを行う。ROM14は、CPU10が実行すべきプログラムなどを記憶している。NVRAM15は、各種の情報やデータを記憶する。ゲートアレイ16は、CPU10と各部21～25とのインターフェイスとして機能する。コーデック17は、音声信号やデータなどの符号化や復号化を行う。DMAC18は、CPU10を介することなくRAM12などとの間で直接データのやり取りを行う。

## 【0060】

読取部21は、イメージセンサやLED光源などを備え、原稿などから文字や図形などの画像を読み取る。印刷部22は、たとえばインクジェット方式などにより文字や図形などの画像を用紙上に印刷する。操作部23は、図3に良く示すように、テンキーや各種の操作ボタンなどを備え、ユーザの操作に応じた入力信号をCPU10に伝える。表示部24は、図3に良く示すように、一例として320×240ドットとした液晶ディスプレイを備え、各種のデータや情報を表示する。無線通信部25は、図示しないアンテナなどを備え、電波により各子機B1～B5との間で各種のデータや情報をやり取りする。

## 【0061】

次に、図1を主に参照して子機B1について説明すると、子機B1は、CPU30、RAM32、モデム33、ROM34、NVRAM35、ゲートアレイ36、コーデック37、操作部43、表示部44、および無線通信部45などを具備して概略構成されている。CPU30、RAM32、モデム33、ROM34

、NVRAM 35、ゲートアレイ 36、およびコーデック 37は、バス線 47により相互に接続されている。バス線 47には、アドレスバス、データバス、および制御信号線が含まれる。ゲートアレイ 36には、操作部 43、表示部 44、および無線通信部 45が接続されている。

#### 【0062】

CPU 30は、子機 B1の動作を制御する。RAM 32は、CPU 30の作業領域や各種データのバッファ領域などを提供する。モデム 33は、音声信号の変調や復調などを行う。ROM 34は、CPU 30が実行すべきプログラムなどを記憶している。NVRAM 35は、各種の情報やデータを記憶する。ゲートアレイ 36は、CPU 30と各部 43～45とのインターフェイスとして機能する。コーデック 37は、音声信号やデータなどの符号化や復号化を行う。

#### 【0063】

操作部 43は、図 2に良く示すように、テンキーや各種の操作ボタンなどを備え、ユーザの操作に応じた入力信号をCPU 30に伝える。表示部 44は、図 2に良く示すように、文字や数字などを数行にわたって表示可能な液晶ディスプレイを備え、各種のデータや情報を表示する。無線通信部 45は、図示しないアンテナなどを備え、電波により親機 Aや他の子機 B2～B5との間で各種のデータや情報をやり取りする。

#### 【0064】

要点について説明すると、本ファクシミリ装置は、図示しないメールサーバとしての機能を備えたセンタとの間で、公衆電話回線 28を通じて電子メールデータをやり取りすることができるものである。特に、電子メールデータを受信する方法には、相手先から本ファクシミリ装置のメールアドレス宛てに送られた電子メールデータがセンタに到着した後、親機 Aや各子機 B1～B5からセンタに対して送信要求を行うことでそのセンタから電子メールデータを受信する通常の実信方法と、センタが新着の電子メールデータを自動的に送信するのに応じて受信する自動受信方法とがある。いずれの実信方法によっても、センタから電子メールデータを受信する際には、親機 Aを受け口として電子メールデータが受信される。なお、上記した自動受信方法を実行するためには、本ファクシミリ装置側か

らセンタに対してその旨を通知しておかなければならず、自動受信方法に関する設定情報などは、親機AのNVRAM15などに記憶されるとする。

【0065】

ここで、本実施形態において特に注目すべき点は、たとえば子機B1からセンタに対して送信要求を行い、そのセンタから電子メールデータを受信する際には、一旦親機Aがセンタからの電子メールデータを受信するものの、その電子メールデータが親機Aのメモリに保存されることはなく、送信要求を行った子機B1のみに転送されることにある。つまり、送信要求を行った子機B1以外の親機Aや子機B2～B5には、電子メールデータが保存されることはなく、受信日時や送信元のメールアドレスなどを示す履歴情報も通知されない。したがって、子機B1からの送信要求に応じてその子機B1のメモリに取り込まれた電子メールデータは、子機B1の表示部44のみで表示されて確認されることとなる。このようにして電子メールデータが子機B1に取り込まれるまでの動作は、主として親機AのCPU10により制御される。もちろん、親機Aから送信要求を行った場合や、他の子機B2～B5のいずれか1つから送信要求を行った場合についても同様である。もっとも、電話番号やメールアドレスなどの宛先識別番号を1つしか持たない場合においては、通信網からの受け口となる特定端末（たとえば、親機）において、電子メールデータを受領し表示などを行うべき特定の端末に当該データを送るために一時的にRAM32に保持されることはあるが、表示や印刷用のバッファメモリに取得されないように制御するか、取得されたとしても表示や印刷がされないように制御されれば良い。特に、子機のメモリ容量が小さい場合にあっては、受信データを一旦親機において蓄積し、これを発呼子機に対して送信するように構成する。

【0066】

また、たとえば親機Aからセンタに対して送信要求を行った場合には、それに応じて親機Aのみがセンタからの電子メールデータを受信して取り込むこととなるが、その際には、受信した電子メールデータが印刷部22を介して印刷される。このとき、受信した電子メールデータに認証情報としてのパスワードが設定されている場合には、認証結果に応じてその電子メールデータが受信に伴って印刷

されることはない。

【0067】

一方、センタからの自動送信に応じて電子メールアドレスを受信する場合には、一旦親機Aにて受信した電子メールアドレスが親機Aのメモリに保存されるとともに、その電子メールアドレスが全ての各子機B1～B5に配信される。つまり、自動送信に応じて電子メールアドレスを受信した場合には、親機Aおよび各子機B1～B5の全てにその電子メールアドレスが保存され、受信日時や送信元のメールアドレスなどを示す履歴情報も保存されることとなり、自動送信に応じて受信した電子メールアドレスは、親機Aおよび各子機B1～B5の全てにおいて確認されることとなる。

【0068】

以上のようにして親機Aあるいは子機B1～B5のメモリには、受信方法に応じて複数の電子メールアドレスやその履歴情報が保存されるが、各機A、B1～B5においては、所定の操作を行うことで電子メールアドレスの中身となるメッセージ文を表示することができる。ここで、電子メールアドレスを表示させる前には、ユーザが電子メールアドレスの履歴情報を一覧表示させ、その中から所望とするものを選択する必要があるが、このとき、一度も表示されたことのない電子メールアドレスについては、その履歴情報が未読リストとして一覧表示され、一方、過去に表示されたことのある電子メールアドレスについては、その履歴情報が既読リストとして一覧表示される。つまり、電子メールアドレスは、未読か既読かを対応付けられて各機A、B1～B5のメモリに保存されている。

【0069】

このような未読の電子メールアドレスについては、公衆電話回線28を通じて外部のパーソナルコンピュータや携帯型電話機などの端末から本ファクシミリ装置にアクセスを行うことにより、外部の端末に一括して転送することが可能とされている。また、既読の電子メールアドレスについては、外部の端末から本ファクシミリ装置に対するアクセスに応じて一括して消去することも可能とされている。

【0070】

すなわち、親機AのCPU10は、センタに対して親機または子機のいずれか

から送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が送信データに関する情報を取得することを禁止する制御手段を実現している。

#### 【 0 0 7 1 】

また、親機AのROM14に記憶されたプログラムは、相手先からの送信データをセンタ経由により受信して表示できる親機と、その親機を通じて送信データを受信して表示できる子機とを備えた通信装置を制御するためのコンピュータプログラムであって、センタに対して親機または子機のいずれかから送信データを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が送信データに関する情報を取得することを禁止するための制御プログラムを含むコンピュータプログラムを実現している。

#### 【 0 0 7 2 】

次に、本ファクシミリ装置の親機Aおよび子機B1の動作について説明する。

#### 【 0 0 7 3 】

図4は、親機Aにおける親機メール受信処理の動作手順を示すフローチャート、図5は、子機B1における子機メール受信処理の動作手順を示すフローチャート、図6は、一例として親機Aにおけるメール表示処理の動作手順を示すフローチャート、図7は、一例として親機Aにおけるリモート操作処理の動作手順を示すフローチャートである。

#### 【 0 0 7 4 】

まず、図4を参照して親機Aが電子メールデータを受信する際の動作について説明する。なお、電子メールデータを受信するにあたっては、先述したように、通常の受信方法あるいは自動受信方法のいずれかに則って所定の動作が行われたとする。

#### 【 0 0 7 5 】

まず、親機AのCPU10は、通常の受信方法あるいは自動受信方法に応じて電子メールデータを受信すると（S1：YES）、自局からのセンタに対する発呼操作に応じて電子メールデータを受信した状態か否かを判断する（S2）。ここで、自局とは、親機Aあるいは子機B1～B5のいずれかを指す。なお、受信

した電子メールデータは、RAM12などのメモリに格納されることとなるが、この時点でのメモリは、バッファとして一時的に利用されるだけである。

【0076】

自局からの発呼であった場合（S2：YES）、CPU10は、親機Aを操作して発呼したのか否かを判断する（S3）。

【0077】

親機Aからの発呼であった場合（S3：YES）、CPU10は、受信した電子メールデータをRAM12などのメモリに保存する（S4）。これにより、受信した電子メールデータは、親機Aに完全に取り込まれた状態とされ、後にメモリから読み出して印刷や表示に用いられることとなる。

【0078】

また、CPU10は、受信日時や送信元のメールアドレスなどを示す受信履歴情報を作成してメモリに保存する（S5）。この受信履歴情報は、後述するメール表示処理において利用されることとなる。なお、受信履歴情報は、電子メールデータと対応付けてメモリに保存されるが、このとき、新着の電子メールデータについては、受信履歴情報とともに後述する未読フラグが「1」としてメモリに保存される。

【0079】

さらに、CPU10は、受信した電子メールデータにおいて、印刷に関するパスワードが設定されているか否かを判断する（S6）。

【0080】

パスワードが設定されていない場合（S6：NO）、CPU10は、受信した電子メールデータを印刷し（S7）、その後この親機メール受信処理を終える。

【0081】

S6において、パスワードが設定されている場合（S6：YES）、CPU10は、受信した電子メールデータを印刷することなく、この親機メール受信処理を終える。つまり、親機Aからの発呼操作に応じて電子メールデータを受信した場合であっても、パスワードが有効に設定されているときには、受信直後に電子メールデータが印刷されることはない。なお、S6において、親機Aにて正しい



パスワードが入力された場合には、S 7に進むようにしても良い。

【 0 0 8 2 】

S 3において、親機Aからの発呼ではなく、子機B 1～B 5のいずれかによる発呼であった場合（S 3：NO）、CPU 1 0は、発呼操作された子機を特定する（S 8）。

【 0 0 8 3 】

そして、CPU 1 0は、発呼操作が行われたものと特定した子機に対して受信した電子メールデータを転送し（S 9）、その後この親機メール受信処理を終える。つまり、この場合には、発呼操作が行われた子機のみ電子メールデータが送られ、親機Aや他の子機には受信した電子メールデータやその受信履歴情報が伝えられることはない。

【 0 0 8 4 】

S 2において、自局からの発呼ではなく、センタからの自動送信に応じて電子メールデータを受信した状態の場合（S 2：NO）、CPU 1 0は、S 4，S 5と同様にして受信した電子メールデータをRAM 1 2などのメモリに保存する一方（S 1 0）、受信日時や送信元のメールアドレスなどを示す受信履歴情報を作成してメモリに保存する（S 1 1）。

【 0 0 8 5 】

そして、CPU 1 0は、親機A以外の各子機B 1～B 5に対して受信した電子メールデータを転送し（S 1 2）、その後S 6に進む。つまり、センタから自動的に送信されてくる電子メールデータを受信した場合には、その電子メールデータが親機Aに完全に取り込まれた状態とされる一方、各子機B 1～B 5にも取り込まれた状態とされるのである。

【 0 0 8 6 】

S 1において、電子メールデータを受信していない場合（S 1：NO）、CPU 1 0は、電子メールデータを受信するまでS 2以降に進まない。

【 0 0 8 7 】

次に、図5を参照して子機B 1が電子メールデータを受信する際の動作について説明する。なお、子機B 1は、先述したS 9あるいはS 1 2の動作に応じて親

機Aから転送されてくる電子メールデータを受信するものである。

【0088】

まず、子機B1のCPU30は、親機Aからの電子メールデータを受信すると（S21：YES）、受信した電子メールデータをRAM32などのメモリに保存する（S22）。これにより、受信した電子メールデータは、子機B1に取り込まれた状態とされ、後にメモリから読み出して表示に用いられることとなる。

【0089】

また、CPU30は、受信日時や送信元のメールアドレスなどを示す受信履歴情報を作成してメモリに保存し（S23）、その後この子機メール受信処理を終える。なお、受信履歴情報は、電子メールデータと対応付けてメモリに保存されるが、このとき、新着の電子メールデータについては、受信履歴情報とともに未読フラグが「1」としてメモリに保存される。

【0090】

S21において、電子メールデータを受信していない場合（S21：NO）、CPU30は、電子メールデータを受信するまでS22以降に進まない。

【0091】

次に、図6を参照して親機Aに保存された電子メールデータを表示する際の動作について説明する。なお、図6は、一例として親機Aにおける動作手順を示すが、子機B1などにおける動作手順も図6と同様とされる。

【0092】

まず、ユーザによって電子メールデータを表示するための所定の操作が親機Aの操作部23を介して行われると、親機AのCPU10は、現時点で親機Aのメモリに保存されている全ての電子メールデータを対象とし、未読フラグが「1」か否かを調べる（S31）。この未読フラグとは、新着の電子メールデータをセンタから受信して受信履歴情報を作成する際、その電子メールデータについては一度も表示されたことのないことを表すためにメモリに書き込まれるビット情報であって、新着の電子メールデータに対応しては未読フラグが「1」とされる。

【0093】

未読フラグが「1」の電子メールデータがある場合（S31：YES）、CP

U10は、該当する電子メールデータの受信履歴情報を未読リストとして作成する(S32)。

【0094】

一方、未読フラグが「0」の電子メールデータがある場合(S31:NO)、CPU10は、該当する電子メールデータの受信履歴情報を既読リストとして作成する(S38)。

【0095】

そして、CPU10は、親機Aのメモリに保存されている全ての受信履歴情報についてのリストアップを終えると(S33:YES)、未読と既読とに分けて受信履歴情報のリストを親機Aの表示部24に一覧表示させる(S34)。この際の表示方法としては、最初に未読リストを表示させ、ユーザの切り替え操作に応じて次に既読リストを表示させたり、あるいはその逆としても良い。また、リストアップされた受信履歴情報が相当数となる場合などに応じて、たとえば100件ごとにグループに分け、グループごとに切り替えできるように分割表示するとしても良い。さらには、受信履歴情報ごとに未読か既読かを示す目印を表示するとしても良い。

【0096】

こうして表示された受信履歴情報の中からユーザがスクロール操作などによって所望とする受信履歴情報の番号を選択すると(S35:YES)、CPU10は、選択された受信履歴情報に該当する電子メールデータをメモリから読み出し、その電子メールデータの中身となるメッセージ文を表示部24に表示させる(S36)。

【0097】

そして、CPU10は、表示した電子メールデータに対応する未読フラグを「0」としてメモリに書き込み(S37)、このメール表示処理を終える。なお、未読フラグが既に「0」として書き込まれているときは、未読フラグを「0」とする書き込みが行われなくても良い。

【0098】

S35において、ユーザによって所望とする受信履歴情報の番号が選択されな

い場合（S35：NO）、CPU10は、S34に戻って受信履歴情報の一覧表示を続ける。

【0099】

S33において、全ての受信履歴情報についてのリストアップを終えていない場合（S33：NO）、CPU10は、全てのリストアップを終えるまでS31を繰り返す。

【0100】

次に、図7を参照して親機Aに保存された電子メールデータを外部の端末からリモート操作する際の動作について説明する。なお、図7は、一例として親機Aにおける動作手順を示すが、子機B1などにおける動作手順も図7と同様とされる。

【0101】

まず、親機AのCPU10は、外部の端末から公衆電話回線28を通じてリモート操作を要求するコマンドを受信したか否かを判断している（S41）。このコマンドは、リモート操作の承認を得るためのパスワードや、リモート操作の対象となる親機Aなどを指定するためのコードなどとともに、外部の端末からDTMF（Dial Tone Multi Frequency）信号に載せて送られてくるものである。

【0102】

リモート操作を要求するコマンドを受信した場合（S41：YES）、CPU10は、そのコマンドとして一括転送コマンドを受信したか否かを判断する（S42）。この一括転送コマンドとは、メモリに保存された電子メールデータを一括して外部の端末に転送すべきことを要求するものである。

【0103】

一括転送コマンドを受信した場合（S42：YES）、CPU10は、親機Aのメモリに保存されている未読の電子メールデータを一括して外部の端末に転送し（S43）、その後このリモート操作処理を終える。この際、未読の電子メールデータは、それに対応してメモリに書き込まれた未読フラグが「1」であることから、この未読フラグの値に基づいて読み出されることとなる。

【0104】

S 4 2 において、一括転送コマンドではなく (S 4 2 : N O)、一括消去コマンドを受信した場合 (S 4 4 : Y E S)、C P U 1 0 は、親機 A のメモリに保存されている既読の電子メールデータを一括して消去し (S 4 5)、その後このリモート操作処理を終える。この際においても、既読の電子メールデータは、それに対応してメモリに書き込まれた未読フラグが「0」であることから、この未読フラグの値に基づいて読み出されることとなる。また、既読の電子メールデータを消去する際には、対応する受信履歴情報についても消去される。

## 【 0 1 0 5 】

S 4 4 において、一括消去コマンドでもない他のコマンドを受信した場合 (S 4 4 : N O)、C P U 1 0 は、受信したコマンドに応じた動作を行うべく、このリモート操作処理を終えて他の処理に移る。

## 【 0 1 0 6 】

S 4 1 において、外部の端末からリモート操作を要求するコマンドを受信していない場合 (S 4 1 : N O)、C P U 1 0 は、そのコマンドを受信するまで S 4 2 以降に進まない。

## 【 0 1 0 7 】

したがって、上記親機 A および子機 B 1 ~ B 5 を備えたファクシミリ装置によれば、たとえば自発的に子機 B 1 からセンタに対して電子メールデータを送信すべき旨の要求を行った場合には、その子機 B 1 が親機 A を通じて電子メールデータを受信しつつも、送信要求を発した子機 B 1 以外の親機 A や他の子機 B 2 ~ B 5 には受信した電子メールデータが保存されないで、私信としての電子メールデータが送信要求を行った子機 B 1 のみに取り込まれ、その子機 B 1 上で電子メールデータを表示させて内密に取り扱うことができる。もちろん、親機 A から送信要求を行った場合や、他の子機 B 2 ~ B 5 のいずれか 1 つから送信要求を行った場合でも同様の効果が得られる。

## 【 0 1 0 8 】

その一方、センタからの自動送信に応じて親機 A が電子メールデータを受信した場合には、その電子メールデータが親機 A および子機 B 1 ~ B 5 の全てに保存され、各機 A、B 1 ~ B 5 上で自動送信に応じて受信した電子メールデータを表

示させて公的に取り扱うことができる。

【0109】

なお、本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。

【0110】

上記実施形態では、主に受信した電子メールアドレスを表示する態様について説明したが、もちろん、親機Aあるいは各子機B1～B5のいずれからでも電子メールアドレスを作成して送信することができる。電子メールアドレスの送信に際しては、送信相手先のメールアドレスを入力する必要があるが、このメールアドレスについては、相手先の電話番号としてあらかじめメモリに登録された電話帳情報などと同様に、必要に応じてメモリに登録しておくことができる。登録の際には、図3に良く示すように、表示部24の下端近くに設けられたファンクションキー23Aの1つを登録ボタンとして利用できる。ファンクションキー23Aは、その近くで表示部24に表示される機能名に応じて各種の機能が割り当てられるものであるが、登録モードでは、1つのファンクションキー23Aに登録ボタンとしての機能が割り当てられ、そのファンクションキー23Aが登録ボタンであることが表示部24にて示される。そして、メールアドレスや電話帳情報の登録件数については、メモリ容量に応じてある程度の上限数が定められているが、これらの登録件数が既に上限に達している状態では、登録モードであっても登録ボタンが表示されることはない。これにより、登録件数が上限となって登録できない状況では、その旨のメッセージなどを特に表示しなくても、登録ボタンの非表示に応じて登録件数が上限であることをユーザに知らせることができる。

【0111】

また、上記実施形態は、電子メールアドレスに関するものであるが、ファクシミリデータに置き換えても同様の効果を得ることができる。

【0112】

さらに、親機は、ファクシミリ装置本体に限らず、据置型の電話装置であっても良く、パーソナルコンピュータであっても良い。後者の場合、本発明は、上記実施形態において説明した各処理（ステップ）を含むコンピュータプログラムにより実現される。同様に、子機においても、上記実施形態において説明した各処

理を含むコンピュータプログラムによりPDAなどの上で実現される。

【0113】

親機AのCPU10による動作は、子機B1のCPU30によって実行されるとしても良く、また、子機B1は、電子メールデータを印刷する機能を備えたものでも良い。

【0114】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項1に記載した発明の通信装置によれば、たとえば子機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、その子機が親機を通じて送信データを受信しつつも、送信要求を発した子機以外の親機などには送信データが取得されないで、私信としての送信データが送信要求を行った子機のみを取得され、その子機上で送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。もちろん、親機から送信要求を行った場合や、複数の子機のいずれか1つから送信要求を行った場合についても同様である。

【0115】

また、請求項2に記載した発明の通信装置によれば、請求項1に記載の通信装置による効果と同様の効果を得ることができる。

【0116】

さらに、請求項3に記載した発明の通信装置によれば、請求項1または2に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて親機が送信データを受信した場合には、その送信データが親機および子機の全てに取得され、各機上で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

【0117】

また、請求項4に記載した発明の通信装置によれば、請求項2または3に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば親機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて親機にて送信データを受信した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、子機から送信要求を行った場合には、親機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、その子機上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うこ

とができる。要するに、制御手段は、親機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その親機が送信データを受信して取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させるものとすることができる。

## 【 0 1 1 8 】

さらに、請求項 5 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 4 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば親機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、その親機にて受信した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

## 【 0 1 1 9 】

また、請求項 6 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、親機および子機の各機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

## 【 0 1 2 0 】

さらに、請求項 7 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 6 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

## 【 0 1 2 1 】

また、請求項 8 に記載した発明の通信装置によれば、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、本機が送信データを受信しつつも、送信要求を発した本機以外の子機などには送信データが取得されないで、私信としての送信データが送信要求を行った本機のみを取得され、本機の画面上で送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。

## 【 0 1 2 2 】

さらに、請求項 9 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 8 に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて本機が送信データを受信した場合には、その送信データが本機および子機の全てに取り込まれ、各機上



で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

【 0 1 2 3 】

また、請求項 1 0 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 8 または 9 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて本機にて送信データを受信した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、子機から送信要求を行った場合には、本機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、その子機上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うことができる。要するに、制御手段は、本機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その送信データを受信して取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させるものとすることができる。

【 0 1 2 4 】

さらに、請求項 1 1 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 0 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、本機にて受信した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

【 0 1 2 5 】

また、請求項 1 2 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 8 ないし 1 1 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、本機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

【 0 1 2 6 】

さらに、請求項 1 3 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 2 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

【 0 1 2 7 】

また、請求項 1 4 に記載した発明の通信装置によれば、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合には、本機が親機から

送信データを取得しつつも、送信要求を発した本機以外の親機などには送信データが取り込まれないので、私信としての送信データが送信要求を行った本機のみを取得され、本機の画面上に送信データを表示させて内密に取り扱うことができる。

## 【 0 1 2 8 】

さらに、請求項 1 5 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 4 に記載の通信装置による効果に加えて、センタからの自動送信に応じて親機が送信データを受信した場合には、その送信データが親機を通じて本機に取得され、本機の画面上で送信データを表示させて公的に取り扱うことができる。

## 【 0 1 2 9 】

また、請求項 1 6 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 4 または 1 5 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合に限り、それに応じて本機が送信データを取得した際には、その送信データを印刷させることができる。言い換えれば、本機から送信要求を行った場合には、親機にて一旦受信した送信データが印刷されることはなく、本機の画面上で送信データを表示させるのみとして内密に取り扱うことができる。要するに、制御手段は、本機からの送信データを送信すべき旨の要求に応じて、その送信データを取得した場合にのみ、印刷手段を介して送信データを印刷させるものとすることができる。

## 【 0 1 3 0 】

さらに、請求項 1 7 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 6 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば本機からセンタに対して送信データを送信すべき旨の要求を行った場合でも、その送信データに認証情報が設定されている場合には、本機にて取得した送信データが印刷されることはなく、受信した送信データの秘匿性を高めることができる。

## 【 0 1 3 1 】

また、請求項 1 8 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 4 ないし 1 7 のいずれかに記載の通信装置による効果に加えて、本機に取り込んだ送信データを未読／既読ごとに分けて一覧表示することで見分けやすくすることができる。

【 0 1 3 2 】

さらに、請求項 1 9 に記載した発明の通信装置によれば、請求項 1 8 に記載の通信装置による効果に加えて、たとえば外部からの要求に応じてその外部へと未読の送信データを一括して転送したり、既読の送信データを一括して消去したりすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る通信装置の一実施形態として、ファクシミリ装置を示すブロック図である。

【図 2】

子機の外観を示す外観図である。

【図 3】

親機の外観を示す外観図である。

【図 4】

親機における親機メール受信処理の動作手順を示すフローチャートである。

【図 5】

子機における子機メール受信処理の動作手順を示すフローチャートである。

【図 6】

一例として親機におけるメール表示処理の動作手順を示すフローチャートである。

【図 7】

一例として親機におけるリモート操作処理の動作手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

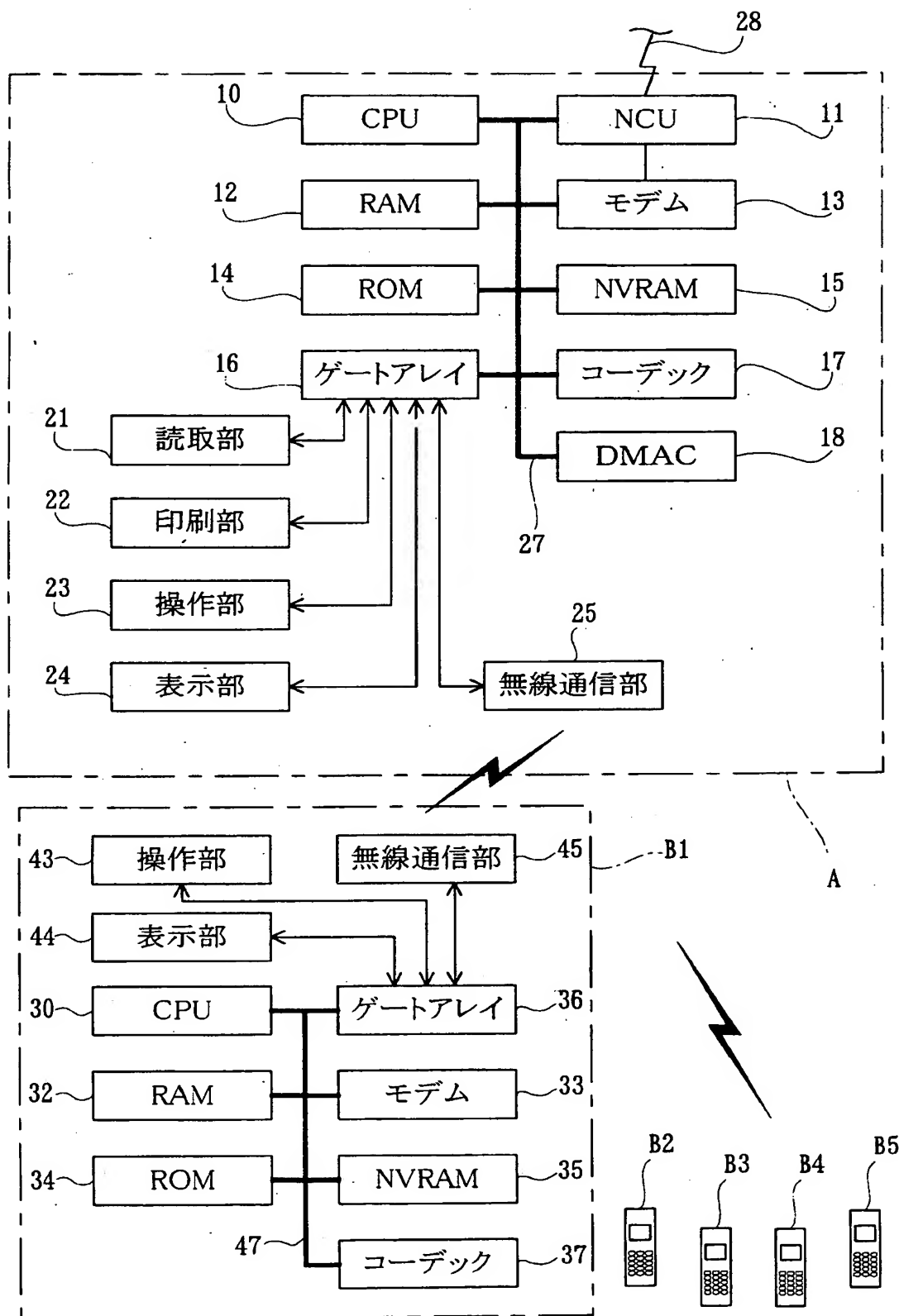
1 0	C P U
1 1	N C U
1 2	R A M
1 3	モデム
1 4	R O M

1 5	N V R A M
1 6	ゲートアレイ
1 7	コーデック
1 8	D M A C
2 1	読取部
2 2	印刷部
2 3	操作部
2 4	表示部
2 5	無線通信部
2 8	公衆電話回線
3 0	C P U
3 2	R A M
3 3	モデム
3 4	R O M
3 5	N V R A M
3 6	ゲートアレイ
3 7	コーデック
4 3	操作部
4 4	表示部
4 5	無線通信部
A	ファクシミリ装置本体（親機）
B 1 ～ B 5	コードレス電話機（子機）

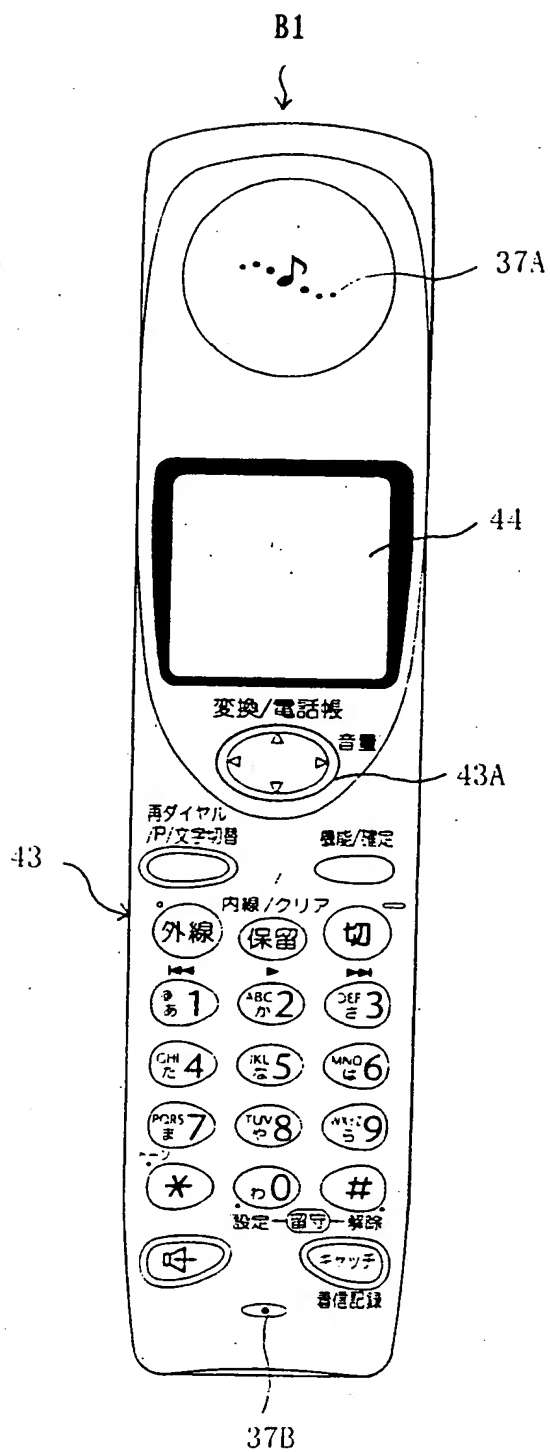
【書類名】

図面

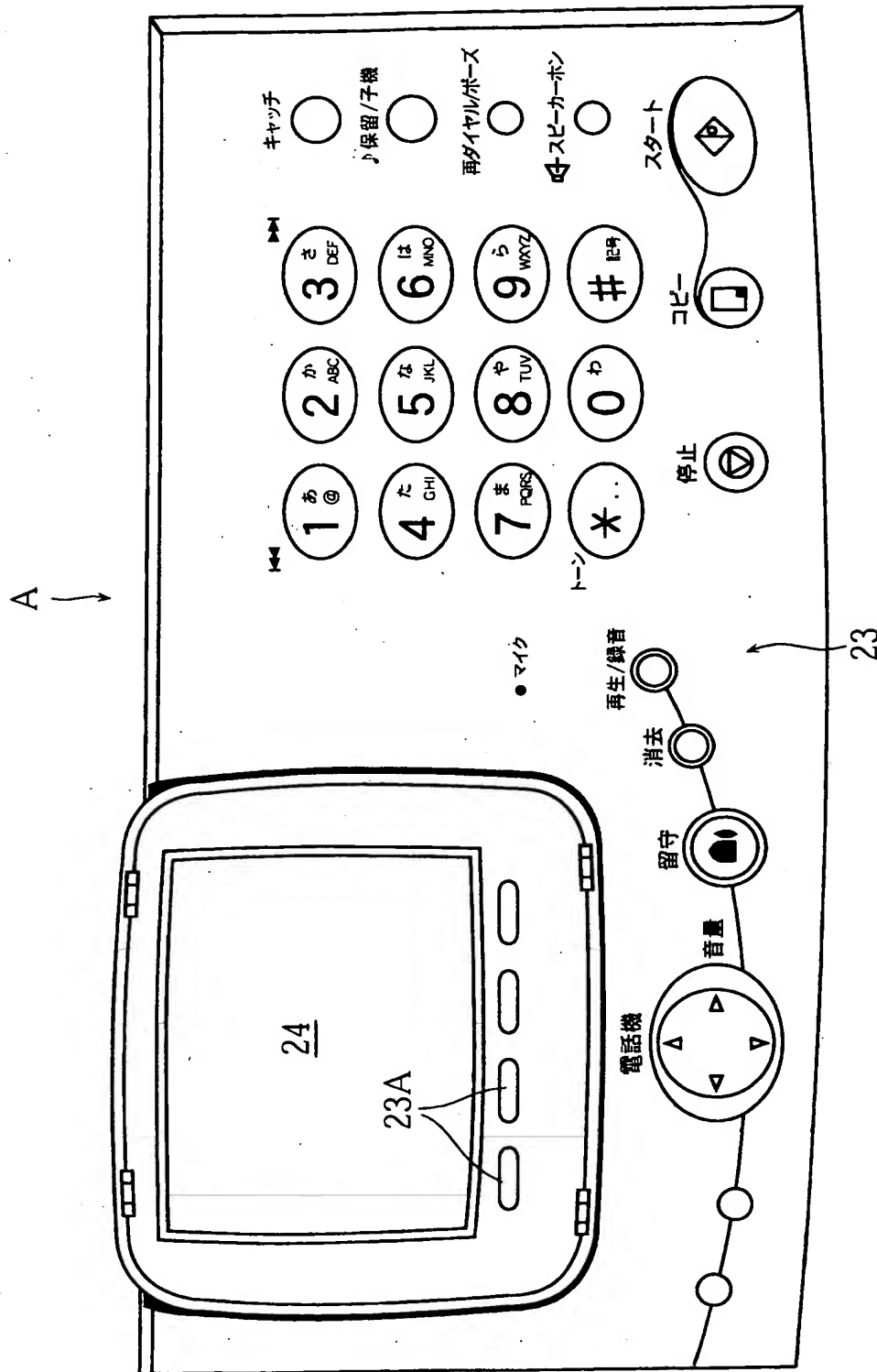
【図1】



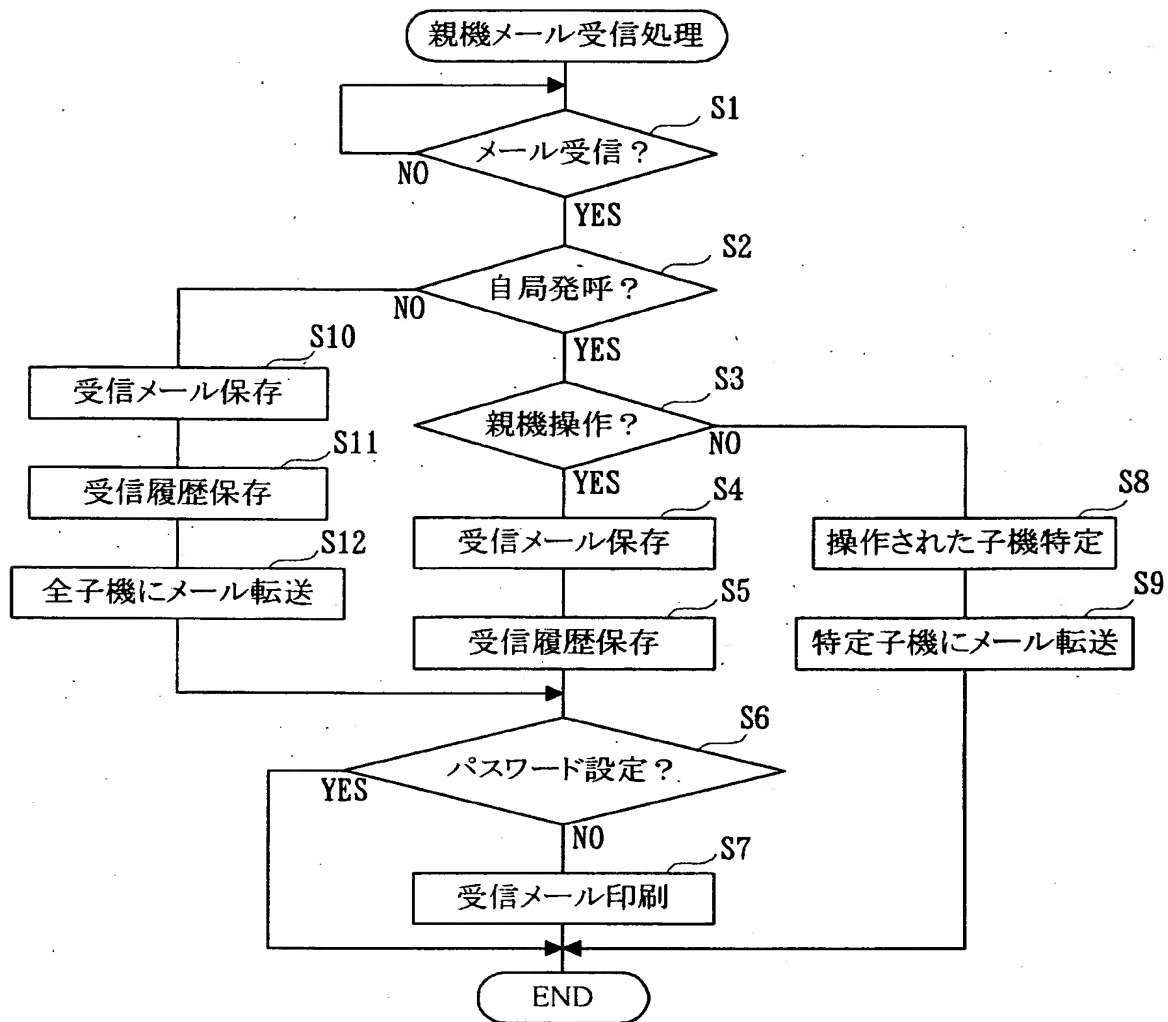
【図2】



【図 3】

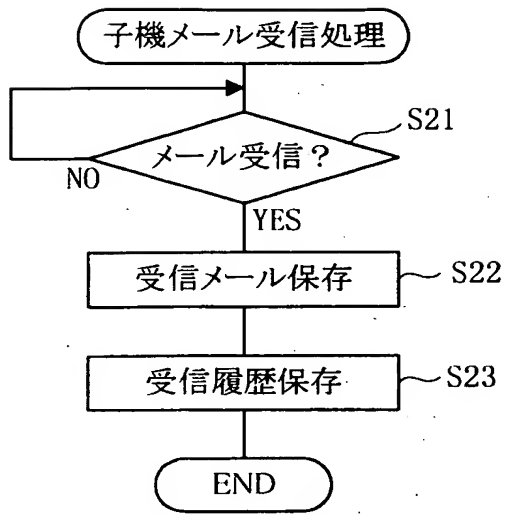


【図 4】

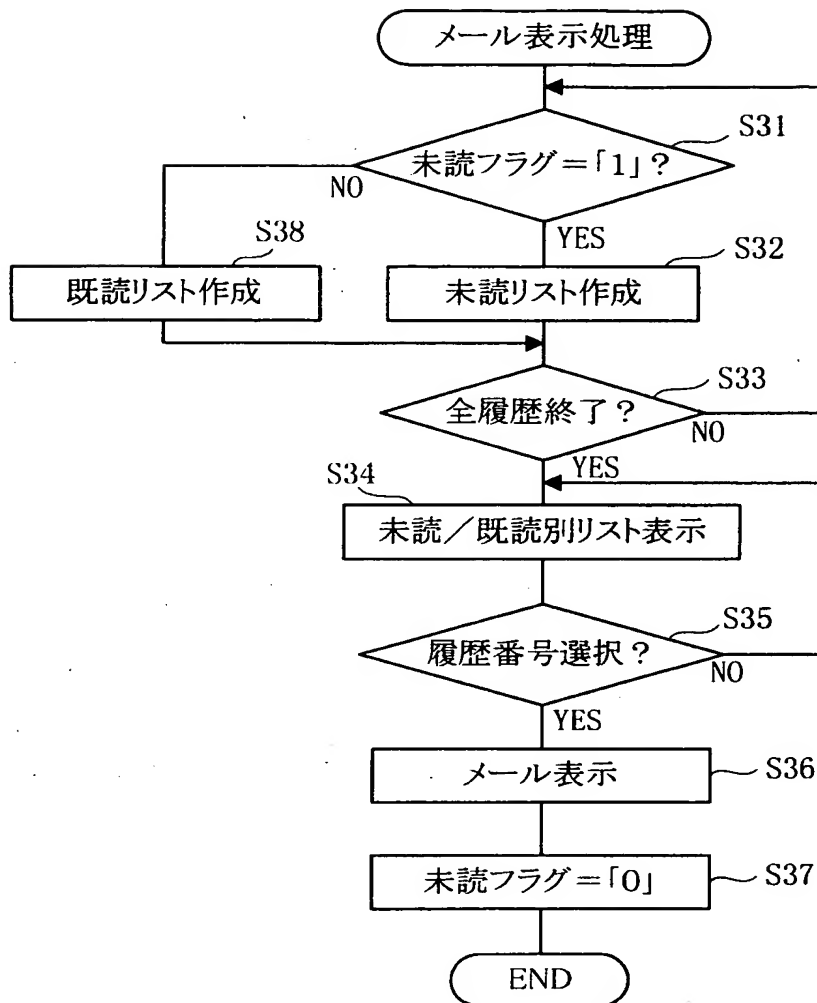




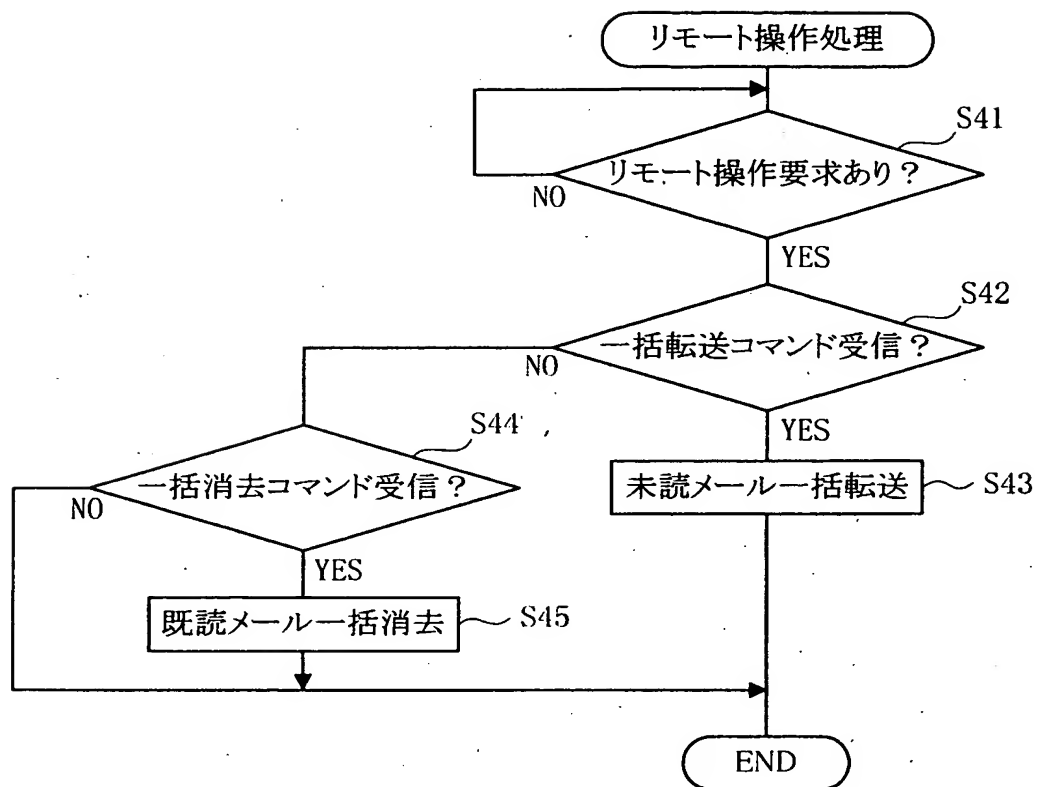
【図 5】



【図6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 相手先から送られた電子メールアドレスを受信する方法に応じて内密に取り扱うことができる通信装置を提供する。

【解決手段】 相手先からの電子メールアドレスをセンタ経由により受信して表示できる親機Aと、その親機Aを通じて電子メールアドレスを受信して表示できる子機B1～B5とを備えたファクシミリ装置であって、親機AのCPU10は、センタに対して親機Aまたは各子機B1～B5のいずれかから電子メールアドレスを送信すべき旨の要求がなされた場合、その要求を行った以外の他機が電子メールアドレスに関する情報を取得することを禁止する。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005267]

1. 変更年月日 1990年11月 5日

[変更理由] 住所変更

住 所 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

氏 名 ブラザー工業株式会社